

## 1 学校運営の中期目標

**現状と課題**

本校は、学校教育目標を「差別の現実に学び、人権教育を実践する。」とし、めざす子ども像を、

- ・現実を正しく見つめ、差別を許さない子どもの育成
  - ・自分のものとして学力をしっかりと身につけて行く子どもの育成
  - ・一人一人をみんなで、みんなのことを一人一人が考える集団の育成
- と設定し、人権教育を基盤に、一人一人の良さや可能性をのばし、「生きる力」を育む教育活動を推進してきた。

21世紀は、知識社会といわれている。グローバル化、ICT化・少子高齢化等、急激な変化は、児童や家庭・学校を取り巻く環境に様々な影響をもたらしている。特に新型コロナウィルス感染症の拡大に伴う新しい生活様式の進展など、将来が予測困難な時代に直面している。

教育においては学習指導要領の改訂によって提示された「主体的・対話的で深い学び」を追求するとともに、道徳教育、外国語科・外国語活動、プログラミング教育等、新たな教育課程の充実に努めなければならない。このような社会状況の中、令和12年以降の社会を見据えた新たな大阪市教育振興基本計画が策定された。三つの最重要目標に向けた取組と、本校が重点課題として大切にしてきた「学力保障」と「集団の育成」に向けた特色ある取組を、本年度も一層推進していく。

本校では「授業が変われば子どもが変わる」を合言葉に、真摯に授業改善に取り組んできた結果、学力面や生活指導面での課題は少しずつ改善されてきている。しかしながら、中期目標に挙げた目標の中で達成に至らなかった項目もある。以下にその項目と現況を上げる。

**【安全・安心な教育の推進】**

○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にすると再設定する。

→75.2%（年度目標 76.4%以上 未達成）

○学校保護者アンケートにおける「友だちとお互いの違いを認めながらよくできている」について肯定的に回答する保護者の割合を95%以上にする。

→78.0%（年度目標 95%以上 未達成）

○小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合 90%にする。

→91.3%（年度目標 85% 達成）

○小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。

→78.2%（年度目標 76% 達成）

○児童アンケートにおいて「読書が好きである」について、「とても思う（思う）」と答える児童の割合を80%以上にする

→71.8%（年度目標 75% 未達成）

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、40%以上にする。

→37.7%（年度目標 33% 達成）

○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全市比(標準化得点)を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も100を上回る。

→国語 4年 98.1→97.2 5年 99.1→99.2 6年 98.0→96.1

4, 5, 6年ともに未達成

算数 4年 97.2→98.2 5年 98.7→99.1 6年 96.7→97.9

5年は未達成、4, 6年は達成

（年度目標全学年1ポイント向上 未達成）

○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。

→73.9%（年度目標 67% 達成）

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、特に課題である「握力」「反復横跳び」「長座体前屈」の平均記録を、令和3年度より3ポイント向上させる。

→男女別6項目において3項目で向上、3項目で低下。

（年度目標 男女6項目で昨年度より向上 未達成）

	握力	反復横跳び	長座体前屈
令和3年度	男) 13.1 kg	男) 39.4 回	男) 27.7 cm
	女) 16.0 kg	女) 36.4 回	女) 34.3 cm
令和5年度	男) 12.9 kg (0.2↓)	男) 42.1 回 (2.7↑)	男) 28.4 cm (0.7↑)
	女) 12.6 kg (3.4↓)	女) 38.4 回 (2.0↑)	女) 32.9 cm (1.4↓)

### 【学びを支える教育環境の充実】

○本校教員の児童のICT活用を指導する能力に対する肯定的な割合を85%以上にする。

→76.7%（年度目標 72% 達成）

○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を75.4%以上にする。

→97.1%（年度目標 75.4% 達成）

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 中期目標

#### 【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な回答する児童の割合を 90%以上になると再設定する。
- 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめの解消に向けて対応している割合を毎年 95%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 92%以上になると再設定する。
- 学校保護者アンケートにおける「友だちとお互いの違いを認めながら仲良くできている」について、肯定的に回答する保護者の割合を 90%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。

#### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、40%以上にする。
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比(標準化得点)を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も 100 を上回る。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 70%以上にする。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、特に課題である「握力」「反復横跳び」「長座体前屈」の平均記録を、令和 3 年度より 3 ポイント向上させる。

#### 【学びを支える教育環境の充実】

- 児童アンケートにおいて「読書が好きである」について、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。
- 本校教員の児童の ICT 活用を指導する能力に対する肯定的な割合を 85%以上にする。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 2 を満たす教員の割合を大阪市令和 4 年度末数値より 10 ポイント改善した 84.7%以上に再設定する。

※基準 2：1 年間の時間外勤務時間が 720 時間以下、時間外勤務時間が 45 時間を超える月数 6 以下、時間外勤務時間が 100 時間を超える月数 0、直近 2～6 か月の時間外勤務時間の平均が 80 時間を超える月数 0、すべてを満たす。

### 3 本年度の自己評価結果の総括

#### 【安全・安心な教育の推進】

教職員が一丸となり、児童に寄り添って指導を継続してきた。全校集会や平和集会などを中心に取組を進め、人権を尊重する精神が身に付いてきている。不登校傾向にある児童については、保護者や児童への働きかけ、関係諸機関との連携などの取組の成果もあり、在籍比率は減少している。しかし、学校だけでは対応しきれない事案もあり、状態の改善までには至っていない児童もいる。また、道徳の学習や教職員の継続した声かけにより、児童の規範意識も高まっている。今後とも保護者や地域、関係諸機関との連携を深化しながら、児童に寄り添った教育活動をさらに充実させていきたい。

#### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

研究授業やメンター研修などで、外部講師による指導案検討や討議会、講義形式による研修を行い、実践的な授業づくりについて学び、教員の指導力向上に取り組んだ。しかし、目標値に到達できず、基礎基本の学力が定着していない児童が一定数いることが分かった。算数科を中心に習熟度別少人数指導を充実させることを通して、一定の成果は見られたが、学力の二極化や主体的に取り組む児童がまだまだ少ないなど課題も多い。今後は、低学年からの学習体制のフォローなど、学力アップにつながる支援体制の見直しなどを通して基礎基本が定着できるように取組を進めていきたい。体力の向上については、体育科の学習だけでなく、体力づくり週間、学級遊び、南運動場の開放など、体を動かす機会を多く設定し、運動の日常化を図ることができた。しかし、学年が上がるにつれ、肯定的な回答が低くなってしまい、新体力テストの結果も目標値には到達できなかった。今後は、学年問わず運動に親しめるような体育科の学習に関する指導方法や教材・教具の工夫、指導計画の検討を行い、さらなる運動能力の向上を図っていきたい。

#### 【学びを支える教育環境の充実】

図書ボランティアや学校図書館補助員、図書委員会により、図書室の環境整備ができた。また、読書ノートの活用により、個人差や学年差はあるものの、読書量は増えている。しかし、進んで読書する児童とそうでない児童の差が大きい。ICT活用については、ICTを使った授業づくりや効果的な活用方法などについて研修を行った。ICT活用を指導する能力についても、概ね肯定的な回答を得ており、教員の指導力が向上したと言える。教員の時間外勤務時間については昨年と比べて減少させることができた。ただ、時間外勤務をする教員が固定化しており、保護者や地域の理解も得ながら、今後も改善を図っていく。

大阪市立清水小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</b></p> <p>○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。</p> <p>○小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を78%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。</p> <p>●学校保護者アンケートにおける「友だちとお互いの違いを認めながら仲良くできている」について、肯定的に回答する保護者の割合を90%以上にする。</p> <p>●小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を85%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策1－1 いじめへの対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめや差別について全校児童で考える場の設定をする。</li> <li>・定期的に人権教育に関わる研修を行い、児童理解の深化充実を図る。</li> </ul>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年3回以上人権・平和・仲間づくりについて考える全校集会を行う。</li> <li>・月1回以上の児童理解の場やスマスク「心の天気」の活用を行う。</li> <li>・学期に1回のいじめアンケートと学びのポータルの相談機能を活用することで、児童の実態把握に努める。</li> </ul>	B
<p>取組内容②【施策2－1 道徳教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活目標や強調週間を設け、子どもたちの規範意識を高める。</li> </ul>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「気持ちのよいあいさつをする」「時刻を守る」「自分で考えて行動できる」を軸として児童へ毎日言葉をかけ、意識と行動が変容するようにする。</li> <li>・「みんなのやくそく」をふり返り、安全に学校生活を送る意識を高める。</li> <li>・「あいさつ週間」に年間1回以上取り組む。</li> <li>・交換授業などによる道徳の授業も充実させながら、全教育活動を通して「きまりやルール」を守る意識を高める。</li> </ul>	B

<p><b>取組内容③【施策 2－4 インクルーシブ教育の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「共に学び、共に育ち、共に生きる」インクルーシブ教育を推進し、児童の自立を支援するシステム・環境整備を進める。</li> </ul>	
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回の部会や個別の課題について検討する場を設定し、教職員間の共通理解を図る。</li> <li>・「学校と親の会」を学期に1回開催し、学校と保護者の連携を図る。</li> <li>・近隣の特別支援学校との交流を通して、障がいについての知識、理解を深める。</li> </ul>	B
<p><b>取組内容④【施策 2－5 多文化共生教育の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な体験活動を通して、児童自らが自主的・自発的に国際理解、多文化共生の学びに取り組む機会を充実させる。</li> </ul>	
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールドワーク等、体験的な活動を計画し、実施する。</li> <li>・芸術文化の観点でふれ合う（観劇鑑賞を含めた）機会を年1回以上設ける。</li> <li>・総合や学級活動を通じ、児童が主体的に学ぶ国際理解・多文化共生教育の場を設定する。（日本の伝統文化、SDGs等も含む）</li> <li>・民族講師やC-NET等との交流を全学年で年1回以上実施する。</li> </ul>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p><b>取組内容①</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全校集会や平和集会で、人権について考える学習を進めた。たてわり班で異学年と交流しながらみんなで考えを深めることができた。</li> <li>・月に一度人権教育に関わる研修会を行い、職員間の人権意識を高め、児童理解の深化充実を図ることができた。</li> <li>・心の天気の入力は定着してきたが、学年により異なる。学年によっては、朝の時間を大幅に取られてしまうこともあり、積み重ねてできるよう指導していく。</li> <li>・学期に1回のいじめアンケートや学びのポータルの相談機能を活用して、児童の実態把握に努めた。また、いじめが起こった時の対応について明文化したことで事象が起こった際に即時に対応する体制を整えることができた。</li> </ul>	
<p><b>取組内容②</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「気持ちの良い挨拶をする」「時刻を守る」「自分で考えて行動できる」の3つは、職員も意識して声かけすることで、児童の意識は昨年度より向上した。</li> <li>・毎月の生活目標について全校朝会で話をしたり、あいさつ強調週間等で声をかけたりすることで挨拶をする児童が増えた。</li> <li>・道徳の交換授業が実施されたことで、担任だけでなく学年にかかわる教員も「きまりやルール」を守る大切さを児童と考える機会を設けることができた。</li> </ul>	
<p><b>取組内容③</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童理解の場を設けることで職員の共通理解ができた。</li> <li>・「学校と親の会」を学期に1回開催し、学校と保護者の連携を図ることができた。</li> <li>・3年生では、近隣の特別支援学校との交流の場を設定し、事前学習やボッチャ、しっぽとりなどの活動を通して障がいについての知識、理解を深めることができた。</li> </ul>	
<p><b>取組内容④</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学期に1回多文化週間を行い、決められた国のあいさつや遊びを児童が楽しんでいる姿</li> </ul>	

を見ることができた。

- ・民族講師や C-NET との交流授業を実施し、外国のあいさつや歌を通して理解を深めることができた。また、民族講師とは給食交流を 1 年間通して行った。
- ・5 年生はコリアタウンでフィールドワークを行い、体験的な活動を通して多文化共生についての理解を深めることができた。

#### 次年度への課題

- ・心の天気への入力が学年・学級によって偏りがあるので、全児童が入力できるように指導していく。また、入力された内容を把握し活用していく。
- ・児童の情報については明文化された情報共有の在り方を活用し、共通理解を図っていく。また定期的に、正しく活用されているか確認する。
- ・支援が必要な児童の特性については、保護者や児童の意向を確認した上で必要に応じて年度始め等に学級・学年の児童に共通理解していく。
- ・「みんなのやくそく」を全校児童で確認する必要がある。
- ・あいさつやきまりを守ることが出来る児童は少しずつ増えてきているが、一部の児童は定着していないので教職員が一貫した指導を続けていく必要がある。
- ・多文化週間が効率的に運営できるように委員会の役割等を見直す必要がある。

大阪市立清水小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p>○小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント向上させる。</p> <p>○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な回答をする児童の割合を38%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。</p> <p>●小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策4－3 英語教育の強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全校で外国語教育を推進する。</li> </ul> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝のモジュール10分×週2回を設定し、全学年で外国語活動を実施する。</li> <li>・日常的に外国語に触れられるように生活環境を整備し、児童が自発的に外国語を活用するようにする。（あいさつ等を掲示する等）</li> </ul>	B
<p>取組内容②【施策4－2 「主体的・対話的で深い学び」の推進（各学校の実態に応じた個別支援の充実）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究主題「子どもたちが主体的に楽しく学べる授業づくり」の実践や公開授業を通して、授業力の向上を図る。</li> <li>・「主体的・対話的で深い学び」へとつながる授業実践に努める。</li> </ul> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全員が1回以上の研究授業等を行い、年間12回以上実施する。</li> <li>・メンター研修を中心に、外部講師による授業実践を実施する。</li> <li>・研究主題に基づいた研修会や討議会を、学期に1回以上実施する。</li> </ul>	B
<p>取組内容③【施策5－1 体力・運動能力向上のための取り組みの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動する喜びやできる喜びを感じる活動を通して、体力向上への意識を高める。</li> </ul> <p>指標</p>	B

<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が日常的に運動を志向するよう環境整備を行うとともに、なわとび、かけあし等の取組時間を設定し、体力作りに努める。</li> <li>・トップアスリートの招聘や体力サポート事業を活用し、運動への意欲付けを行う。</li> <li>・新体力テスト結果を SKIP へ入力し、経年で分析できるようにする。それによって課題を明確にし、課題を意識した運動を体育の学習に取り入れるようにする。</li> </ul>	
<p>取組内容④ 【施策 5－2 健康教育・食育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童自ら生活習慣を振り返る取組を通じて、健康を保持する意識を高める。</li> </ul>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<b>取組内容①</b>	
指導計画に基づいて、朝のモジュールや教員の英語研修等、実施することができた。外国語担当の教員が動画を作成したり、朝の放送をしたりして、児童への意欲づけを行っている。ただ、学級によっては週 2 回のモジュールが実施できていなかったり、遅刻で参加できない児童が各学級で数名いたりする現状もある。外国語の掲示物などは、学年によってバラつきがあり、日常的に外国語に触れ、自発的に外国語を活用するまでには至っていない。	A
<b>取組内容②</b>	
年間を通して、全員が 1 回以上の研究授業や一人一授業を行うことができた。メンター研修を中心に、外部講師による指導案検討や討議会、講義形式による研修を行っており、実践的な授業づくりについて学ぶことができた。研究主題に基づいた研修会（スカイメニュー研修、理論研修等）を行うことができた。研究授業後の討議会では、毎回外部講師に指導講評をしていただくことで、教職員が研究について学びを深めることができた。	A
<b>取組内容③</b>	
日常的に運動に取り組めるように、15 分休みに南運動場を開放する等環境整備を行った。このことにより、多くの児童が、休み時間に活発に体を動かす姿が見られた。また、3 学期には業間かけ足や業間なわとびの時間を設定し、体力づくりに取り組むことができた。トップアスリートの招聘、体力サポート事業の活用も計画的に実施することができた。ただ、新体力テストの結果を SKIP に入力はしたが、結果の分析やそこから分かる課題を体育の学習に取り入れるまでには至っていない。	B
<b>取組内容④</b>	
保健だよりや養護教諭による保健指導により、休み時間後や給食前の手洗い、水分補給等に対する意識が高まった。また、夏季・冬季休業中の歯磨きカレンダーなどを活用し、自分の生活習慣を振り返ることができた。3 学期には、学校保健委員会や給食週間の取り組みを計画通り実施することができた。給食週間中には、委員会の発表を行ったり、調理員	B

さんへの手紙で感謝の気持ちを伝えたりすることができた。ただ、睡眠不足による遅刻、居眠り等生活習慣が乱れている児童が一定数いるのも現状である。

#### 次年度への課題

##### 取組内容①

・モジュールの時間が行事によって抜けることが多いので時間の確保が必要。しかし、朝の時間も休み時間もＩＣＴ、読書、体力向上などと目標が多く、どれも行うために中途半端な取り組みになっているものが多いように感じる。来年度は、どれか一つに特化することも視野に入れてはどうか。

##### 取組内容②

・主体的に取り組むにはまず基礎的な学力が必要。基礎的な学力をつけるために、個別に時間をかけ、学習内容が定着できるようにするとよいが、どうすれば児童と関わる時間を確保できるか考える必要がある。

##### 取組内容③

・運動について「苦手なこと」を分析し、それに対しての取り組みを行うとともに、自分に何が足りないのかを把握するために、経年で体力テストの結果が分かるようにする必要がある。

##### 取組内容④

・睡眠不足などの生活リズムの乱れに関しては、保護者の協力も必要だと思われる所以、学校から保護者に対して啓発することを考えてはどうか。

大阪市立清水小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p>○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く]</p> <p>○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を84.7%以上にする。</p> <p>●児童アンケートにおいて「読書が好きである」について、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。</p>	<b>B</b>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【施策6－1 ICTを活用した教育の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT等を活用した協働学習や個別学習の充実を図るための授業作りを行う</li> </ul> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎朝学習用端末にログインさせ、心の天気の記入をするとともに、授業に活用できるようにする。</li> <li>・学習用端末等を効果的に活用できる単元を発掘し、記録を残して次年度へ引き継ぐ。それにより、活用意欲が高まるようにする。</li> <li>・効果的に活用できる環境整備、指導方法の作成に取り組み、授業実践の充実を図る。</li> </ul>	<b>B</b>
<p><b>取組内容②【施策7－1 働き方改革の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の働き方を調整して、効率よく仕事を進め、児童と向き合う時間を作る。</li> </ul> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援担当との道徳の交換授業を行う。</li> <li>・学年内交換授業を積極的に行う。</li> <li>・毎月月末近くに超過勤務時間を確認し、自身の勤務時間の調整を行うようにする。</li> </ul>	<b>B</b>
<p><b>取組内容③【施策8－2 「大阪市子ども読書活動推進計画」に基づいた取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館開放等、図書ボランティアや読み聞かせボランティアとの連携のもと意欲をもって読書に親しむ環境を整える。</li> </ul> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読書カード等を活用し、一人あたりの読書量を増やす。（低・中・高別）</li> <li>・魅力ある「学校図書館」を目指し、読書環境整備を行う。</li> <li>・読み聞かせ会、アニメーション等、読書の楽しさを伝える取り組みを進め、読書に親しむ機会を増やすことで、図書館の利用を増やす。</li> </ul>	<b>B</b>
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	

取組内容①
研究主題が「ICTの活用」であったため、どの学年も意識して学習者用端末を使用し、児童が意欲的に学習に取り組むことができた。学習用端末を、日中は机の中や手提げ袋に入

れておくことで、使いたいときに出しやすくするなどの工夫もあり、さらに利用頻度が増えた。

学習では年間を通じて、デジタルドリルだけでなく、発表ノートを活用し、自分の考えを表したり、友だちと考えを共有したりすることができた。また、授業内容によってSKYMENUで課題を配布したり、国語科や道徳で気持ちの変化を表すポジショニングを活用したりした。

毎日学習者用端末にログインし、心の天気を入力、授業に活用するよう努めてきた。児童は毎朝学習者用端末を起動するのが習慣になっている。反面、登校が遅いなどの理由でみんなと同じタイミングでできない子がいるなど、入力が定着しない児童もいた。心の天気の活用や、学習用端末等を効果的に活用できる単元を発掘し、研究部を中心となって、次年度へ引き継ぐために記録を残すことができた。その記録を来年度に生かしていく。各学年の研究授業も実践交流の場となった。

ICT 担当の環境整備のおかげで、機器や環境が整っている。また、不備が生じても。担当教員の迅速な対応により、年々整ってきている。

#### 取組内容②

道徳の交換授業は行うことができた。担任と特別支援教員との道徳の交換授業の実施が見られ、担任だけでなく、より多くの目で児童の実態把握ができた。また、教材づくりの負担軽減につながることができた。学年内交換授業も行い、教材研究の時間を少し短縮することができた。しかし、学年間での交換授業は学年によってバラバラである。高学年ほど、時間割の制約があり実施が難しい。また、担当する教科によって負担の軽重がある。

セット時刻を目安に業務を行うことができている。超過勤務時間を確認する時間を全職員が参加する職員会議等で行うことで、確認する時間が確実に取れていて、自身の勤務時間を知り、調整することができた。時間差勤務を活用している職員も多く、自己の働き方を調整して、効率よく仕事を進めることができた。今後さらに、効率を上げ、児童と向き合う時間の確保に努める。

#### 取組内容③

読書ノートの活用により、一部の児童は積極的に本に親しみ、個人差や学年差はあるものの、読書量は増えている。読書週間の時期は積極的に読書をする様子が見られた。読書量の多い児童を全校朝会で紹介したり、しおりを渡したりすることで、意欲的に取り組もうとする姿が見られる。

図書ボランティアや学校図書館補助員、図書委員会により、図書室の環境整備ができた。図書館開放も週3回行い、学級文庫の入れ替えも行った。先生たちによるおすすめの本の紹介など、工夫した取り組みを行うこともできた。いつもきれいに整備されており、児童は落ち着いて読書活動ができた。貸出カウンターの季節やその時期にあわせた本のコーナーや、先生のおすすめの本コーナーは、楽しみにしている児童が多い。

図書ボランティア、図書委員、お話会の方などによる読書の楽しさを伝える取り組みを1年間通して進めることができた。図書ボランティアによる読み聞かせは、定期的に行われ、楽しそうに聞いている姿が見られる。他にも、アニメーション等、読書週間で本の紹介を行うことで、読書への興味が増す児童が増えた。

## 次年度への課題

### 取組内容①

- ・整備環境が年々改善されているように感じるが、児童による普段の扱い方は乱暴に感じる場面があるので、指導していく必要がある。
- ・心の天気による心情の変化を確認することはできたが、まだまだ学校全体とは言えてないので引き続き、毎日のルーティーンと言い続ける必要がある。
- ・1日1回、端末を開く習慣の定着方法を模索する必要がある。

### 取組内容②

- ・低学年でも学年交換授業を行える制度を整える。
- ・学習者用端末を積極的に使用することや、体力増進のために外で体を動かすことと、読書量を増やすこと等、取り組むことが多く、どれも達成しようとするには時間的に難しい面がある。

### 取組内容③

- ・読書カードにあまり取り組めなかった。朝会での表彰も昨年度よりも減ったように感じる。休み時間などにやることの選択肢が読書以外にも増えたため、読書をする子どもも減っている？（外遊び、タイピング、室内遊びなど…）また、読書タイムがなくなったことも原因にあるのでは？
- ・読書ノートの活用方法を定着させる方法を模索する必要がある。
- ・日常的に読書をするように、定着させることは難しかった。
- ・学習者用端末の積極的な利用、外で体力づくりなど、読書以外に取り組む内容が多すぎることもあり、読書量を増やすまでは至っていない。
- ・学級文庫も少しずつ本が増えているが、充実までには至っておらず、児童の実態にあわない本も多いので児童の意見を取り入れて増やす。また、教師が隙間時間などに、読書をしてその姿を児童にも見せるとよいのではないか。
- ・工事の関係もあるが、図書室開放を利用する児童の数が少なくなっている傾向にある。
- ・環境整備が行き届いているのに、進んで読書する児童とそうでない児童の差が大きい。